

Title	スピリチュアル・コミュニケーション：生きる支え実施結果：アンケート集計結果の概要（総合研究所 News：スピリチュアルケア研究講演会）
Author(s)	聖学院大学総合研究所
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.21-No.2 : 30-33
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=3143
Rights	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

スピリチュアルケア研究講演会
 スピリチュアル・コミュニケーション
 ～生きる支え～
 実施結果—アンケート集計結果の概要—

林章敏先生は聖路加国際病院ホスピスの医師として終末期の患者さんのケアに関わっています。ホスピスの患者さんは身体的苦痛、精神的苦痛、社会的苦痛、スピリチュアル・ペインをもっていると言われていています。林先生は身体的苦痛の緩和は、勿論、患者さんのスピリチュアルな痛みに積極的に関わって、患者さんのいのちを支えています。ホスピスのケアとは何かを一緒に考えてみましょう。

日時 2011年6月3日(金)14:00～16:30

場所 聖学院大学ヴェリタス館教授会室

【プログラム】

主催者挨拶 阿久戸光晴(聖学院大学理事長・学長)

講師紹介 窪寺俊之(聖学院大学大学院教授)

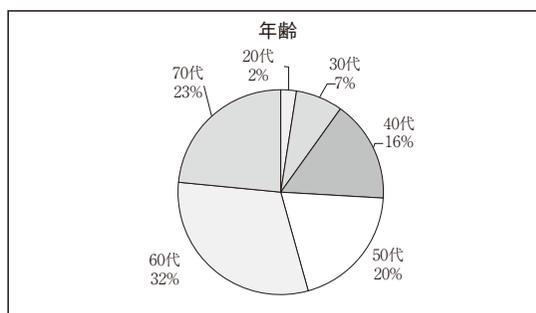
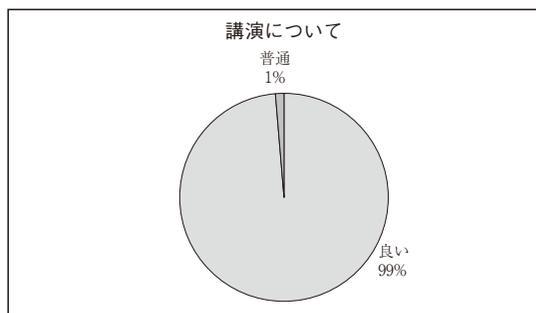
講演 「スピリチュアル・コミュニケーション～生きる支え～」
 林 章敏(聖路加国際病院緩和ケア科医長)

質疑応答

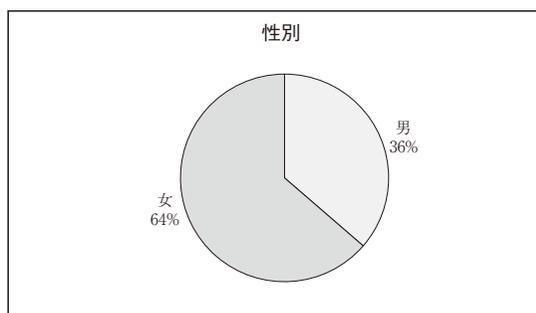
閉会あいさつ

【結果の概要】

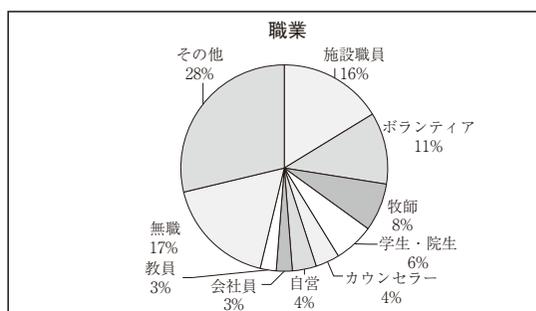
- ・参加者の人数は128名。内、アンケート回答者は82名。
- ・講演について、「良い」という意見が99%と高い評価を得た。
- ・自由意見は、「大変わかりやすい講演だった」「大変勉強になった」「コミュニケーションの大切さを認識した」「またこのような講演の開催を希望する」など。



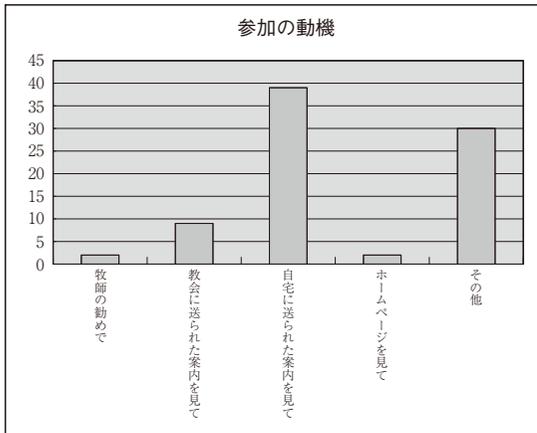
*回答者の年齢は、60代が最も多く32%、次に70代23%だった。



*性別は、女性64%、男性36%となった。



*職業別には、「無職」が最も多く17%、次に「施設職員」16%。「その他」の内容は、「看護師」「伝道師」「ヘルパー」「介護福祉士」「チャプレン」など。



*参加の動機としては、「自宅に送られた案内を見て」が最も多かった。「その他」の内容は、「広報誌を見て」「大学内のチラシで知って」「朝日新聞を見て」「友人の勧め」。

リクエスト

- ・施設入居者（老人福祉）に対する接し方、スピリチュアルケアのあり方。
- ・「リビングウィルの冊子」について、詳しくお聞きしたい。
- ・緩和ケアにおける傾聴の意義。
- ・教会の中での牧会カウンセリング（魂の配慮）の理論と実務。
- ・平穏死という考え方について。
- ・被災者のスピリチュアルケアについて。
- ・医者・看護師等、医療提供者以外のMSW（メディカル・ソーシャルワーカー）やCP-PSW（臨床心理士—精神保健福祉士）の方の関わりを伺いたい。
- ・石丸昌彦先生。
- ・中井英夫さん。
- ・細谷亮太さん。
- ・平山正実先生。
- ・沼野尚美さん。

自由意見

- ・現在、在日外国人の生活支援のボランティアをしています。そのときの対応や相談を受けている時の対応にとっても役立つヒントをたくさん得られました。ありがとうございました。
- ・県立がんセンターの緩和ケア病棟のデイサービスボランティアになって2年目。見習い中でほとんど患者さんやご家族の方とお話する機会はありません。とても困難を感じています。いつの日か直接的にお役に立てればと願っております。先生のおっしゃることは、頭では理解できるのですが、実践になると自信がありません。当面は人間力をみがいて、来るべき時に備えたいと思います。本日は貴重なお話をどうもありがとうございました。参考にさせていただきたいと思います。
- ・仕事でも緩和ケアに興味があり、院内の勉強会にも参加している。今回は特に聖路加のDr.ということで、楽しみにしていました。ありがとうございました。
- ・私の所属する、宮原キリスト教会には聖学院の学生が礼拝、集会に参加されています。今後、聖学院大学とキリスト教会のパイプ役（コーディネート）の支援を行いたいと考えています。
- ・主催者ご挨拶の阿久戸学長の今回の東日本大震災に関する三つ（地・拷・下）からの人間への警告、メッセージは良かった。林先生の講演も内容が具体的で分かりやすかった。「存在」の意義を改めて感じました。
- ・本当に素晴らしいお話でした。自分は勿論のこと、周囲の人たちにもこの心を広げていきたいと思っています。本日は本当にありがとうございました。
- ・とても穏やかなお顔とお声と話し方で、心地よく、わかりやすく聞けました。父が80歳になり、今は元気ですが、いつか訪れる「みとり」のことを学んだり、考えたりしたいと思っています。聖路加国際病院はテレビや本などをみている、懂れています。その先生のお話を直接うかがえ（入院のことも）本当に良かったです。
- ・わかりやすく、先生の人徳が伝わってくるよう

な講演でした。家族でない引き出せない笑顔というエピローグを拝聴しながら、虐待をしていた親と子の関係ではどうなのかとちょっと哀しくなりました。そういう人も先生のような立派な先生にあって最後の時にかわってくれるといいと思います。

- ・緩和医療のお話、大変参考になりました。自分も高齢に達しました。病気ではありませんが、出来ることが次第に制限されてきて、予防のためにコミュニケーションをしっかりと保つことの重要性を学びました。「心病む人の友となろう」を旗印に電話による相談を実際に行っていますが、傾聴や相手の心に安心を与えることが、その助けになればと思って電話をとっています。今回の話を参考にこれからも対応していきたいと思います。
- ・現在、グリーフカウンセラーの勉強中であり、また、ホスピスボランティアとして病院へ行き、アロマセラピーをしていますので大変参考になりました。
- ・亡くなる直前の父との関係を振り返りながら聞かせていただきました。身体以外の痛みが父を苦しめていたことを知り、それに反して家族は身体的痛みばかり関心を払っていたことを反省しました。スピリチュアルケアは危機にある全ての人が必要とするケアだと思うので、さらに広く認知されることを願っています。すばらしい講演を聞くことができたことを感謝します。
- ・本日は貴重なお話の機会に恵まれ、大変満足の午後のひと時でした。最近のマスコミ、新聞報道でも取り上げられていますが、今後の医療体



定員を超える128名の参加者があった

制も国際的になり、「メディカルツーリズム」等の導入でこの世界も多様な体制が必要になると思います。日本人としてのくくり以上に万国共通の精神性が大切になってくるかと思われますので、今回はこの辺の分野にたけたゲストなどに出会えたらと思います。楽しみにしております。

- ・闘病中の者です。数年前に緩和ケア病棟で夫をみおくりました。何日かして、御礼に伺った折、その緩和ケアの医師から何を勘違いしたのか「あんたもここへ来るんだよ」という言葉をかけられ、大変ショックを受けたことがあり、医師とは思えない言葉に今でもこういう医師がいることをお知らせしたいと思いました。一人で診ていた病棟だったので、自分の独壇場だったと思います。死を考えざるを得ない者へかける言葉ではないと思いますが、はなはだ林先生に訴えることではありませんが、医師の教育もお願いしたい。本日はありがとうございました。
- ・とても勉強になりました。心よりの感謝を申し上げます。これからの小生の奉仕に生かしていきたいと存じます。また、窪寺先生がおっしゃっていたように、日頃のコミュニケーションにこそ生かすべきものだと思います。同じような意味で子どもの時から、聖書のイエス・キリストを伝えることがいかに重要であるかを再確認させていただきました。林章敏先生のますますのご活躍、そして、聖学院大学総合研究所のご発展を心よりお祈りさせていただきます。ありがとうございました。
- ・今日は、林章敏先生の心の奥深くにしみるご講演を頂きまして、本当にありがとうございました。とても豊かな良い学びの時間と機会を頂いたことに感謝の気持ちでいっぱいです。今日うかがったお話を私の心の中で大切にしながら、これからも毎日を大切に生きていきたいと思いました。また今回のように「いのちと魂と医療と…」などのテーマの講演の開催を希望します。ありがとうございました。
- ・高齢者の介護、日常生活の支援にも非常に役立つ、参考になりました。同様のテーマは何度聞いても良いと思う。一度では、身につかない、

意識しなければ（心がけないと）いけないので…。

- ・スピリチュアルコミュニケーションという言葉は初めてで、新鮮な言葉に響きました。日頃からスピリチュアルコミュニケーションができるから考えてみたいと思いました。ありがとうございました。
- ・老人ホームで働いているのですが、「最期はここで」という方がほとんどです。今日お話をうかがい、とても現実的でコミュニケーションをとる上で、大変参考になりました。ありがとうございました。
- ・コミュニケーションの基本が大変勉強になった。特に共感がお互いに共有できること。スピリチュアルケアにおける、大切な対応は日常的対人関係の中でも重要と思う。
- ・肺がん末期の弟を看取る時、本当に今日の話と同じでした。未信者でしたが、導かれ希望を持って亡くなり、喜びの顔を見ることが出来ました。ありがとうございました。
- ・コミュニケーションの大切さを認識しました。
 - 1、何かお手伝いすることはないですか？
 - 2、一番気がかりなことは何ですか？
 - 3、患者が聞いて欲しいところまで、踏み込み方として教えてくれますか？聞かせてくれますか？

講演会に参加できありがとうございました。

- ・大変分かりやすい講演で、日々、人に接する仕事や家族との関わり方を考えさせられました。ありがとうございました。
- ・介護士をしている者ですが、今回の林先生の講演を聞かせて頂き、コミュニケーションスキルの中で、傾聴、共感、感情への対応というところで、利用者との心の中の奥深くに潜んでいるものに、触れていくことが重要であるかと実感しています。それには心からの言葉掛け、言葉とコミュニケーションの重要さと大切さを痛感させていただきました。大変分かりやすい講演をありがとうございました。
- ・私も緩和ケアの仕事をしているので、先生のお話は良く分かりました。特に患者中心の医療ではなく、患者との共同医療という視点は参考に

なりました。ありがとうございました。

- ・今回のお話は終末期でのことばかりではなく、通常高齢者と関わっているときも役立つことだと思います。
- ・「申し訳ない」「ありがとう」、「迷惑をかける」と「大変さ」の違い、使い分けとても参考になった。
- ・終末期を迎える方と接する難しさを感じていますので、色々参考になりました。
- ・林先生の穏やかな話し方がとても良かった。
- ・また、こうした講演会を楽しみにしております。
- ・主題の全容がイメージでき、生活の質に貢献するものでした。
- ・大変分かりやすかったです。早速実践していきたいと思います。
- ・大変参考になりました。自分に何ができるのか？
- ・はじめの会場内の室温が低すぎて皆さん上着を着たりしていたと思います。会場内の人の様子を見ての室温調整をして頂ければと思いました。（後半は暑すぎでした）
- ・講演中、パソコンを打つ音が耳障りでした。



講演者の聖路加国際病院緩和ケア科医長 林彰敏氏

聖学院大学総合研究所 Newsletter

Vol. 21-2, 2011

2011年8月31日発行

発行人 大木 英夫

発行所 聖学院大学総合研究所

〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1-1

TEL:048-725-5524 FAX:048-781-0421

e-mail : research@seigakuin-univ.ac.jp

Homepage : <http://www.seigakuin-univ.ac.jp>